

式 辞

春の日差しのもと、矢の原の桜並木は若葉となって、さわやかな風を送ってくれています。

本日、令和3年度 島根県立松江南高等学校入学式を挙行し、晴れて275名の皆さんを迎えることができました。新入生の皆さん、保護者の皆様、誠におめでとうございます。私ども教職員一同、大きな喜びと安堵を抱いているところです。

本日はご多忙のなか、PTA会長 宍道正五 様にご臨席いただきました。こうして新入生の前途を祝していただけますこと、心からお礼申し上げます。

昨年に続き、規模を縮小した形での式とはなりましたが、皆さんを心待ちにしている在校生とあわせて全校生徒787名、松江南高校の令和3年度がいよいよ始まります。

さて、新入生の皆さん 皆さんが晴れて一員となった松江南高校は、昭和36年、遙か宍道湖を望むこの矢の原の地に開校しました。卒業生は2万2千名を超え、政治、経済、文化などあらゆる分野でたくさんの方々が活躍されています。

創立60周年という節目を迎えるにあたり、本校は昨年度から新たな挑戦を始めています。

一つは、文部科学省から指定を受けた、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業です。このSSH事業を活用して、新入生の皆さんにも多様な学びや体験の機会を提供し、一層の授業改善や、教育のICT化に取り組みます。

そしてもう一つ。いよいよ本日から「探究科学科」の歴史が始まります。理数科を文理融合型に進化・発展させ、教科学習のうえに探究型学習を充実させた新たな学科です。一層の魅力化に取り組む普通科とともに、本校の発展を支える両輪として、それぞれの特色を活かし、皆さんの道を拓く舞台となることを期待します。

昨年来の前例のない状況にあって、我々の新たな船出は決して楽なものではないかもしれませんが、この1年がそうであったように、これからも思いがけない困難や判断の難しい場面が待っていることでしょう。

しかし、それだけ世の中には、私たちの知らないこと、解決を待っている課題がたくさん存在するということです。この、先が見通せない時代だからこそ、若者の探究心と気概がいつそう求められると思います。

皆さんにとって、この松江南高校・矢の原の地は、自分には何ができるか、どんな力が秘められているのかを見つける格好の場となることをかたく信じています。

私はかつて普通科18期の生徒として、その後教員として、そして今、皆さんとともに3度目の南高生活をスタートさせました。

南高を思うとき、常に浮かんだのが素晴らしい校歌でした。初代校長・木島俊太郎先生が作詞されたこの歌には、南高の精神と誇りがこめられていると思います。残念ながら、今日は在校生と我々が声高らかに歌うことはできません。

しかし、3番の歌詞にあるように、皆さんがこの地でよき仲間、よき学びとの出会いをとおして「三とせの青春」を輝かせてくれるよう、我々は心から願っています。

本日出席の保護者の皆様、重ねて、お子様のご入学おめでとうございます。おそらく今、お子様の晴れ姿への感慨と、世の情勢への不安をおもちだと思います。残念ながら、我々にも状況を好

転させる策や楽観した見通しは語れません。

唯一言えるのは、生徒を中心に、ご家庭と我々学校が心を一つにして歩み出すこと。皆が思いやりをもって心と体の健康を守る努力を続け、貴重な1日1日を充実させるのみ、ということです。

どうかこれからも信頼関係のもと、お子様の高校生活をともに支えていただきますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

最後に、新入生の皆さんが松江南高校で自己の可能性を広げ、生涯続く友情の絆を結ばれますよう心から祈念し、式辞といたします。

令和3年4月9日

島根県立松江南高等学校長

倉崎千草